

ICT 教育における情報モラル教育の現状と課題

石田夢実

本研究は、ICT（情報通信技術）の教育現場における導入とその影響を、情報モラル教育の重要性を中心に考察するものである。近年、IT 技術の急速な進展に伴い、教育現場においても ICT を活用した教育が推進されている。特に、日本では文部科学省が 2019 年に策定した「GIGA スクール構想」に基づき、1 人 1 台の端末を利用した教育環境が整備され、教育の個別最適化やデジタル技術を活用した学習が実現されている。しかし、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）は、ICT 教育の導入について否定的な見解を示しているが、日本の ICT 教育は、情報モラル教育の強化が重視されていると考えられる。

本研究では、まず日本の ICT 教育の歴史と背景について提示し、特に「GIGA スクール構想」に焦点を当て、その目的や課題について検討した。次に、ICT 教育における情報モラル教育の必要性を取り上げ、デジタルネイティブ世代の特徴やインターネット利用に伴うリスクを指摘した。SNS によるトラブルが増加する中で、情報モラル教育は個人情報保護、ネットワーク上のルール遵守への対応といった倫理的スキルを身につける上で不可欠であることが明らかになった。

さらに、ICT 教育が教員に与える影響に着目した。教員は従来の教育方法に加えて、ICT を活用した指導能力や情報モラルの指導スキルを習得する必要に迫られている。全国各地の取り組み事例を通じて、ICT 導入が教員に新たな負担をもたらしている一方で、教員向けの研修や教材の充実が課題解決となることを示した。また、生徒が ICT を介して関与したトラブルや犯罪事例を分析し、それに対する地域社会や学校の取り組みの重要性について考察を行った。

本研究では、ICT 教育の進展に伴う情報モラル教育の必要性を明らかにし、現状の教育現場が直面する課題を整理することである。ICT 機器の普及が教育現場に多くの可能性をもたらす一方で、技術の進化に教育現場の対応が追いついていない現状が課題となった。今後、ICT 教育の効果を最大限に引き出すためには、教員の指導力向上を支援する研修や教材の充実、情報モラル教育の強化、そして技術の使用が教育全体に与える影響を多角的に評価する取り組みが求められる。